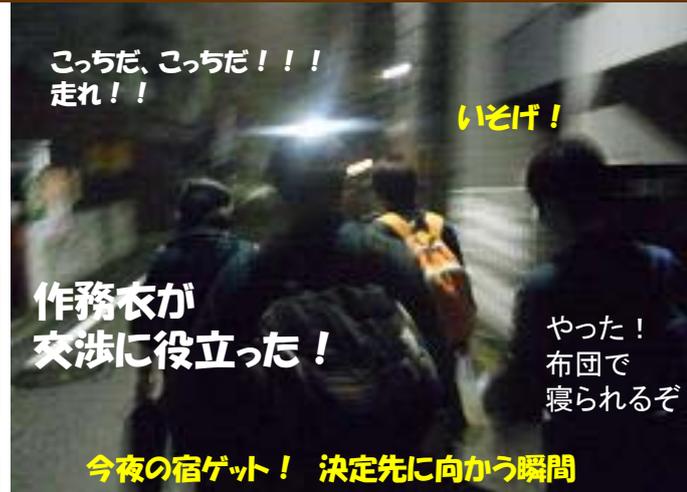


1週間野放し自修・京都潜伏編④ すみません 今晚、泊めていただけませんか？



↑チームの皆でそれぞれ手分けして、宿の交渉に当たる。断られても、断られても、ひたすらトライするのみ。取材でもなく営業でもなく、ただ自分たちを信じてもらうのみ...



↑縁側で寝かせていただいた日もあったし、座敷で座布団が付くのなんて最高の贅沢! 熟睡でした。



宿交渉は、追い詰められた究極の交渉...

地元民いわく、京都は排他的な街...
タダで泊めてもらうなんて無謀だ...と。

夜は必ずやってくる。日中、暑い中、京都の街を歩き、体は悲鳴をあげている。せめて夜はゆっくり休みたい...。しかし、極力お金を使わない、という強い意志の元、ひたすらタダ宿を交渉し続けた。神社とお寺を中心に。そして彼らは、1週間を野宿と間借りだけで乗り切り、宿代を完全に浮かせたのだった。宿をお借りした神社やお寺には翌朝、掃除をしてお礼する。見ず知らずの人から恩を受けるという貴重な体験をした。これは一生忘れない、いつか恩返しをする、と心に誓ったのである。

